

GOOD DESIGN AWARD 2016

～「グッドデザイン賞」 3商品同時受賞 ～

地域・コミュニティと共存する 新しい“住宅のカタチ”を提案

「Premium J 前橋みなみ」／ 街の一部になる New 離れ (住宅・住空間部門受賞)

近年、都心部のみならず、地方・郊外の住宅においてもプライバシーを重要視した家づくりや防犯性を考慮した街づくりを推しすすめるあまり、街の中には憩いの場がなくなり、地域のコミュニティが閑散としつつあります。

この住宅は、これまで独立したプライベート空間として敷地の奥に配置しがちだった「離れ」をあえて表へ出し、母屋との間に生まれた路地空間ごと街にあずけることで、近隣住民とのコミュニケーションの場を作り出すなど、街と一体化する新しいスタイルを提案しています。



前橋みなみモデルハウス／外観



路地空間を演出する屋外バスルーム

母屋と離れの間に屋外バスルームを設置。プライベートなバスルームとしての使用はもちろん、足湯や子供たちの水遊び場として開放することもできます。



人が集まるコモンスペースとしての離れ

プライベートな居住空間は2階にまとめ、母屋との間の路地空間ごとコモンスペースとして活用できるような提案をしています。

光を通す格子耐震壁

「離れ」の四隅には、当社開発の「格子耐震壁」を採用。構造体でありながら光を通し、デザイン性も損なわず、ガラス越しに中の様子も伝えることができます。また、開口部は稼働建具にすることで、プライベート空間として使用する機能も備わっています。

「Premium J 横浜第一」／ 開放的に暮らすための、視線コントロール術 (住宅・住空間部門受賞)



大きな窓の吹き抜け

都市型住宅では隣地との間隔が狭く、道路からの距離も短いという環境も多く、いかに開放的で住み心地の良い空間を作り出せるかが求められます。この住宅は、開口部の位置を工夫し、外部からの視線を徹底的にコントロールすることによって、都心部であっても窓を大きく設け、光や緑を多く取り込みながら目線を制御できる開放的な空間を提案しています。



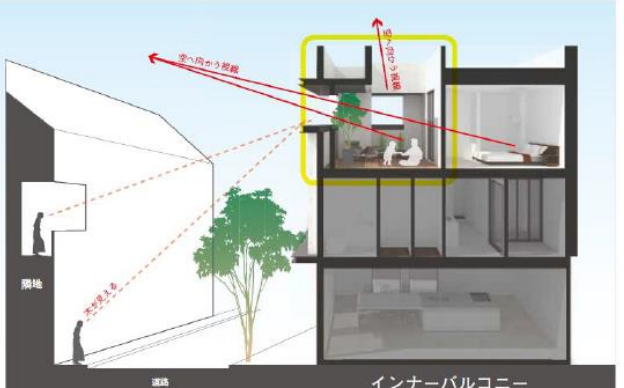
横浜第一モデルハウス／外観

◆ 視線制御でオープンなプライベート空間に

住人の動線にあたる部分やプライベート空間はしっかりと保護し、逆に2階吹き抜け空間など人が通らない部分には、大型サッシで開口部を最大限に設け、視線の位置をずらすように設計しています。また、開口部の上下部分に庇を設けることで、道路レベルからの視線も遮ることができ、オープンでありながらもストレスを感じることなく心地よい開放空間を作り出しました。



大きな窓の吹き抜け



インナーバルコニー

◆ 周囲の視線を気にせず、居室としての機能も備ったインナーバルコニー

壁とガラスの組み合わせを工夫しバルコニーを囲むことで、近隣建物や道路からの見合いを気にすることなくバルコニーを日常的に居室としても使うことが可能になります。



インナーバルコニー

「JアーバンⅢ赤羽」／ 「ときどき同居」はじめました

～縦割り構造と半外空間で作り出す都市型2世帯住宅 (住宅・住空間部門受賞)

これまで2世帯住宅といえば、親世代が1階に、子世代が2階となる場合が一般的で、生活リズムの違いから、生活音問題が課題のひとつとされてきました。この住宅は、その概念を大きく変え、それぞれの生活スペースを「縦割り」にして分けることで、音の問題を含め、お互いのプライバシーを守り、程良い距離感を確保する空間を提案しました。



赤羽モデルハウス／外観



共通リビングとして使用できる半外空間

◆ 共用部分をあえて半外空間に設定

お互いのプライバシーを最大限に考慮し、2世帯の交流の場をあえて半外空間に設置しました。そうすることで、交流できる時間帯や条件も限られ、程よい距離感での同居生活を作り出すことができます。

◆ プライバシーと生活音を完全に分離する縦型構造

2世帯の領域を左右にはっきりと分けるために、コの字型プランを採用し、それぞれの領域を縦にはっきりと分け、お互いのエリアには立ち入ることができない設計としました。この完全な縦型構造が常にお互いがリラックスできる同居空間を作り出しています。



1F 図面
可動壁
必要に応じて面積が調整できる可動壁。家族構成や環境の変化にも対応。

2階・3階
大きな違うバルコニーをずらして配置。プライバシーを守りながらも、互いの存在感を何気なく伝え合う構造を考案。

木造 3階